

# いおうびょう 萎黄病

病原菌名 *Fusarium oxysporum* f. sp. *Fragariae*

## 発生条件

病原菌の発育適温は28℃で、イチゴだけを侵す。主に厚膜胞子が土中に残って伝染源となり、根から侵入して導管を侵して感染発病する。厚膜胞子は耐久力が強く、土中で4～5年以上生存できる。品種による発病差があり、宝交早生は発病しやすく、さちのか、とよのかはやや発病しやすい。



## 発病苗

新葉の黄化や奇形が現れ、高温期には萎れて枯死に至る。汚染土壌、親株ランナーから感染し、7月の育苗期から発病する。



## 発病株のクラウン

クラウンを輪切りにすると維管束部分がリング状に黒褐色となる。